

# 大和雪原到達100周年



氷点下4度のなか力強く雪中行進（勢至公園前）

## 第45回白瀬中尉をしのぶ集い 郷土の偉人を讃える雪中行進

白瀬南極探検隊が、明治45年1月28日午後零時20分、南緯80度05分、西経156度37分に日章旗を掲げ、見渡す限り一面を大和雪原と命名してからちょうど100年のこの日、郷土の偉人「白瀬蠱」を讃える雪中行進が行われました。

氷点下4度と厳しい寒さのなか、小中学生、市民など約500人が参加。金浦海洋少年団が掲げる日章旗、市旗、南極探検旗を先頭に白瀬南極探検隊記念館を午前11時に出発し、偉功碑がある金浦漁港・沖の島公園まで往復5・1kmを行進しました。今回、北海道からの犬ぞりチームのシベリアンハスキー犬も加わり、100年前、南極点を目指した突進隊を思わせる力強い行進となりました。沿道の地域住民から熱い声援が送られると、南極探検旗を振って応える参加者の姿も見られました。

一行は、白瀬中尉の生家・淨連寺の墓前で黙とうを捧げ、沖の島公園の偉功碑前で万歳三唱を行いました。



偉功碑前で万歳三唱

## わくわく南極体験フェア

正午からは記念館と南極広場を会場にわくわく南極体験フェアが行われ、「気象観測体験」や「にかほグルメ屋台」などのコーナーは約1、600人の来場者でにぎわいました。

南極公園に用意された「犬ぞりを体験しよう」も人気で、特



## 大和雪原到達100周年

### 記念式典

午後3時からホテルエクセルキクスイと国立極地研究所（東京都立川市）を会場に、大和雪原到達100周年記念式典が行われました。両会場をインターネット中継で結び、お互いの会場の様子を確認できるようにしました。

式典には、白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクト実行委員会名誉会長の佐竹敬久秋田県知事、国立極地研究所白石和行所長をはじめ、探検隊の遺族や関係者ら約120名が参加しました。

## 100周年

### 記念モノUMENT除幕

東京会場では、白瀬南極探検隊の関係者と極地研究所長、須田副市長などにより、大和雪原到達100周年記念モノUMENTの除幕が行われました。

秋田大学石井宏一准教授がデザインした記念碑は、細長いステンレス板がらせん階段の形状になっており、白瀬蠱中尉が幾

多の困難を乗り越えて南極探検を成功させたことを表しています。また、らせん構造は遺伝子の構造でもあり、白瀬蠱中尉の意志を未来に引き継ごうというメッセージが込められています。**白瀬隊の偉業を語り継ぐことを誓う**

### 佐竹知事あいさつ要約

白瀬隊は日本人で初めて南極探検に挑み極地到達という世界的な偉業を成し遂げた。極点にこそ、辿り着くことができなかつたものの、一人の犠牲者も出さずに無事に帰国した白瀬隊の飽くなきチャレンジ精神と慎重な行動は、勇気と英知の極致として、世界から称賛されており、この偉業により我が国の南極観測参加の道が開けたとも言われている。

白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクト実行委員会は、白瀬隊の偉大な功績を広く後世に伝えたいとの思いから、3年間にわたりイベントや調査研究などを行ってきた。引き続き白瀬隊の偉業を語り継いでいくことを誓う。

## 日本の南極観測の生みの親

### 白石所長あいさつ要約

現在の日本の南極観測は、1957―58年IGY（国際地球観測年）に参加するために、昭和30年11月の閣議決定により、国の事業として実施することになった。第2次世界大戦の敗戦後、10年も経たない間に、日本がIGYに参加して南極観測を始めるにあたっては、非常な困難があったと聞いている。

そんな中で、多くの国民の支持を得て第1次南極観測隊が発にこぎつけた。強い推進力となったのは、子供の頃に白瀬中尉の南極探検の話聞き、本を読み、あるいは直接白瀬中尉や白瀬隊の隊員の講演を聴いた、かつての子どもたちである。彼らが成人して、40余年後に現在の南極地域観測隊の礎を作った。

その意味で、白瀬中尉は、現在の日本の南極観測の生みの親と言っても過言ではないと思う。白瀬中尉は日本の南極観測の偉大なる先駆者である。